2017 年度　学校自己評価報告書（法政大学第二中・高等学校）

教育理念・目標	教育理念：本校における教育は、人格の完成をめざして国民的共通教養の基礎を築き、平和で民主的な国家および社会の形成者を育成することを目的とする。 教育目標①：人類および民族のあらゆる分野における歴史的・文化的遺産を体系的に学び取り、自然と社会・人間に対する認識を深める。 教育目標②：獲得した認識を総合し、自然との共生・諸民族の共同など、人類社会のもつ諸課題と向き合う視野を培う。 教育目標③：学ぶことの意味と喜びを知り、常に学問的好奇心を発揮し、生涯にわたって成長を遂げることのできる土台を獲得する。 教育目標④：自己を客観視し、社会の中でどのように生きるかを考える能力をつける。 教育目標⑤：自己の諸課題の解決・現状の変革を担おうとする自主的精神と互いを尊重し共同での取り組みができる自治的能力を獲得する。 教育目標⑥：高い品性と社会性を身につけ、不正・腐敗を許さず、社会正義を確立する自立の力を獲得する。
重点目標	1、教育目標を達成するために生徒一人一人に高い学力をつけさせるための具体的実践の研究をする。 2、男女共学化 2 年目に際し、新たに表出する課題に対して対応する。 3、新図書館やICTを活用した教育の研究と実践を深める。 4、中高 6 ヶ年を視野に入れた生徒の自主活動を伸ばすための工夫をする。 5、法政大学・育友会（PTA）・同窓会・地域との連携を強化する。

共通課題

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年　度　目　標		年　度　評　価		実施日　2018 年 6 月　2　日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの要望、評価等
1	建学の精神 （建学の精神や理念の理解と意識化）	法政大学の付属校として学園の一翼を担う自覚を入学当初から意識化させるために、昨年度に引き続き、中学1年生の「校外授業」、高校1年生「新入生合宿」など行事や、中学校 1 年社会科の授業を通じて、本校の建学の理念「自由」と「進歩」について大学史や二中高史の独自プリントを使用して学習を行った。大学との連携のなかで、高校 1 年生時に開催される「ウエルカム・フェスタ」を 1 つの動機付けとし、進路意識開拓にもつなげた。高校 2 年時、3 年次に行われる進路の説明会等においても、本校、そして大学の建学の精神についても触れながら実施した。				建学の精神の理解と意識化の取り組みが充分成されていると思う。
2	組織運営	全教員による組織的討議にもとづいて教育方針を定め、これに沿って実践を進めるとともに、定期的に振り返りを行う。このサイクルを確固たるものとするため、年度末に1年間の教育活動を総括し、導き出された教訓を次年度に向けて方針化しつつ、教育実践を進めていくことは組織運営の原則であり、本校の在り方を支える根幹である。 本年度においても当初の予定通り、教員会議を通じて方針を定め、中間点検で実践の到達状況を確認し、年度末に総括を行い次年度への方針を確認することができた。				組織として必要な取り組みがきちんと成されていると思う。
3	教育活動 （教科、生活、進路、行事、自主活動等）	教科教育においては、学校改革の一環として、「教科教育における 6 カ年体系化」の中長期計画に基づき、中高それぞれ第1・2学年の新カリキュラムを施行した。学習内容はもちろん、学習方法についても活動型の学習を大きく位置づけ、他者と協働しながら思考力・表現力を培う実践を進めた。その他の学年においても、学力向上に資するカリキュラムの再構築と実践を展開した。一方、学力の到達状況に応じて特別指導や課題設定などの学習支援を継続した。こうした取り組みを通して多くの生徒を法政大学推薦に値する学力へ到達させることに努めた結果、各教科目の学力到達度、および法政大学への推薦率について前年度の水準を維持することができた。来年度も、学校コンセプトである「調べ、討論し、発表する」教科活動のいっそうの充実に向け、ICT機器および学習情報センターとしての図書館を活用した教科活動を推進する。 生活指導においては、共学化した学年（中高ともに1・2年生）および、最後の男子だけの学年に対して、「新しい学校」としての生徒実態の把握に努めた。「中・高 6 カ年の生活指導の体系化」をはじめ、生徒の学校生活の様々なルールを明確化して、生徒への周知徹底に努めた。「クラブ再構築」をもとにした、女子生徒を含めた共学化での2年目のクラブ活動においては、改善課題の把握と環境整備に重点を置いた。 新入生（中 1、高 1）については例年と同様に多様化する生徒実態に対し、校外授業（中 1）や新入生合宿（高　1）を通じて、個別的な生徒実態把握に努め、他学年については前年度の学年との連携の中で個別的把握を行い、以降の指導の手立てに反映させた。				新カリキュラム実施後の生徒学力の変化について経年できちんと取り組んで欲しい。 引き続き、生徒に対してより丁寧な注意と観察を行って欲しい。

	安全・保健管理 （保健、安全、防災、施設等）	例年通り、定期健康診断・体力測定（スポーツテスト）を実施した。その結果と分析を返すことで生徒は自分の体力や健康状態を知ることとなり、さらには健康への認識を深めるようになった。AED は学校内に 12 カ所設置しており、どこに設置されているかを理解させる取り組みを行っている。夏休み前には教職員対象及び生徒対象（各部の代表者）の安全講習会を実施し、救命救急について学んでいる。さらに授業でも心肺蘇生法や救急法について学んでいる。また近年増加しつつある多方面の問題に対処しなければならない生徒、保護者のためにカウンセリングルームを充実させ、必要な連携が取れる体制を作っている。障害者差別解消法の施行に伴い、今年度も「合理的配慮」の理解を進め、その対応を進めた。 新グラウンドが竣工したことにともない、新しい避難経路の策定とその確認を含めた避難訓練を合計 3 回実施した。避難時の注意事項の確認・徹底も行い、整然と実施することができた。3 回の避難訓練は、ホームルーム直後に実施したが、次年度は教科の授業中や休み時間の訓練も視野にいれて、より実践的な訓練に取り組んでいきたい。	安全管理の問題に対して、充分取り組めたと思う。といわけAEDの設置と理解の取り組みは今後も続けて欲しい。
5	連携 （保護者、卒業生、地域等）	保護者との連携では、育友会（PTA）との連携を基礎に、育友会理事会の円滑な運営に寄与した。中学高校と別組織だった育友会が統一されてから 2 年目となる 2017 年度においても、意見交流を大切にしながら、一つ一つ確認をするなかで連携を図ることを重視した。また、「育友会集中ミーティング」において、昨年度同様に学校と保護者の意見交換が成された。定期的に育友OB会、白塔会（中学保護者OB会）との連携も行った。日常的な保護者連携としては、各学期に開催される保護者会やクラブ保護者会を軸に、クラス担任、養護教諭、カウンセラーを中心に、各学年がチームとなって生徒個々の実態把握と対応を行った。 卒業生との連携では、同窓会を中心に行った。また監督コーチ懇談会（日常の部活指導におけるOBとの連携）を例年通り開催し、クラブ指導の方針について共有につとめた。進路指導においては、その一環として OB 講演会を実施した。 地域等との連携では、「地域に愛される法政二中高」をめざし、地域の方々からお寄せいただく各種ご意見への対応につとめた。さらに学期末ごとに生徒が行う地域清掃ボランティア（各部の部員が中心となって取り組む）、吹奏楽部による地域のお祭りへの参加、教員による年 5 回の登下校路上指導を行った。また二中文化祭・二高祭に於いては、地域の商店街と話し合いを持ち、期間中6店舗に出店していただいた。年末（12 月）には、三付属校の吹奏楽部による合同演奏会を開催し、地域の方々にも開催についての案内をした。	保護者との連携は良く取り組めたと思う。今後その裾野をさらに広げられるようにして欲しい。
6	大学との連携	法政大学と三付属校とが協同して取り組んだ「ウエルカム・フェスタ」は、今年度で5回目となり、市ヶ谷キャンパス、外濠校舎で開催された。三付属校の高校１年生全員を対象に、薩埵ホールで「法政大学」の自校教育、大学での「学び」についての概論を全体会として行い、その後、7会場に分かれ学生・大学院生による具体的な「学びのモデル」の紹介を行った。取り組みの全体を通じて、これから3年間を過ごす、高校での「学び」の位置づけについて考えさせることをねらいとした。また、今年度も同時開催した保護者向けプログラムでは、薩埵ホールでの全体会の様子を遠隔システムで視聴していただいた後、大学生を巡る就職状況、高校生から大学生そして社会人へと成長していく子と親との関係についての講演が行われ、好評だった。 夏休み期間に開催された「One-Day Science College in Koganei Campus」は、今年度で3回目となった。小金井キャンパスにある理工学部、情報科学部、生命科学部の3つの学部が高校生に向けて最先端の研究・技術を体験してもらう企画として、理系分野に興味関心の高い生徒が参加した。今年度は高校１年生～3年生の４０名が参加したが、大変充実した取り組みとなった。また、今年度は初めての取り組みとして、イングリッシュ・キャンプが夏休み期間中２泊３日で多摩キャンパスにて行われ、参加者は英語による合宿を体験することができた。 高校３年生は６月に各学部より大学教員を招いて進路講演会、高校１年生は１月に社会人進路講演会をそれぞれの成長過程に合わせて開催してきている。高校３年生では大学各キャンパスでのゼミ見学会も7月に行われ、生徒の進路選択の機会の一つとなっている。今年度は高校２年生の初めての取り組みとして、3キャンパスの大学職員を招いて、キャンパス・学部説明会を実施し、キャンパスや学部について考える契機とした。「３年３学期プログラム」の取り組みでは、学部毎のクラスに分かれての「テーマ研究」を行っている。課題文献の紹介や研究テーマについての大学教員、大学院生からの助言指導と各学部での入学前教育（ガイダンス）などで大学の援助を受けている。また、総長杯英語プレゼンテーション大会が実施され、3チームが参加し、外国人留学生審査員賞および審査員長特別賞を受賞した。 今後、さらに取り組みを通じて高大教員の交流、協同の広がる可能性がある。	法政大学との緊密な連携がとれていることを評価したい。

付属校独自課題

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日 2018年6月2日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの要望、評価等
1	新校舎グラウンド・外構整備	新校舎ならびにグラウンド・外構を含めたキャンパス全体が昨年度末までに無事竣工を迎え、本年度は具体的な活用の推進と実際の運用状況についての検討・検証を進めた。また年度末には竣工検査を実施し、法人内の関係組織・関連業者の協力・連携により、無事故かつ生徒・教職員の安全・安心な学校生活を第一とした点検・対応を行うことができた。				施設の点検整備は定期的かつ、継続的に行って欲しい。
2	入試広報	2017 年度は共学募集 3 年目の活動となり、女子を迎え入れて 1 年経った本校の様子を対外的に求められた一年であった。広報活動については、受験生・保護者に“この学校でどのように成長できるか”というストーリーイメージを明確かつ具体的に伝えることをコンセプトにした。外部での各種説明会へ積極的に参加し、二中高教育の本質や入試制度についての正確な理解を促すなど、これまで以上に丁寧な活動を心掛けた。また、学校説明会では受験生・保護者と本校の重要な出会いの場と位置づけ、入試広報委員会で検討を重ね、各回におい				本校の入試・広報活動によって、充分に受験生及びその保護者に伝えられたと思う。

		てコンセプトを明確にし、具現化することができた。学校説明会での保護者の登壇をはじめ、文化祭等でも育友会と連携し、「保護者から見る二中高」についてアピールすることで出来た。 入試活動については、今年度より Web 出願を導入することで、受験生・保護者の負担を軽減することが出来た。今後は共学完成年度を迎え、「探求する力」など、ソフト面でのより具体的な実践をアピールできるよう、積極的に入試広報活動を展開していきたい。	
3	**新制服の制定**	新制服の着用がスタートし、身だしなみについての指導を展開した。2016 年度に検討が始まった女子生徒のオプションサマースカート導入について、具体的に検討し、デザインの決定と販売価格・方法の決定を行った。2018 年度 4 月中の納品に向けて、業者と打ち合わせを適宜行った。	
4	**2017 年度学校構想（国際交流の推進）**	国際交流の推進に向け、昨年度に引き続き諸活動を展開した。姉妹校オレワ・カレッジとの交流における長期留学制度、および本校独自のカナダ研修は 2 年目の展開を無事に終えることができた。また学内での国際交流の基盤となる生徒組織と連携した国際交流委員会の活動も、物資支援とそのための募金活動など、新たな活動を展開した。あわせて、本校への長期留学生を迎え、様々な交流活動を実施することができた。本年度は、インドネシアのラッフルズ・クリスチャン・スクールおよびスウェーデンのミカエル・エリアス高校からの生徒受入を行った。 一方高大連携の観点から、法政大学台湾教育センターと連携し、昨年度に引き続き瀛海(インハイ)高級中學受け入れを実施した。歓迎行事や授業体験など、学内関係諸組織と連携しながら行うことができた。	生徒の国際交流の機会が増えたことは評価できる。今後も多様な手法により、国際交流を推進して欲しい。